

保護者の時代と
こんなに
違う!?

大学入試 & 大卒就職 最新事情

高校生活は、先に控える大学進学、就職活動のための大事な準備期間。保護者もかつて通った道ですが、昔とガラリと変わっている事情とその背景を知り、正しくサポートできるようにしておきましょう。

この先、親にとって耳慣れない
言葉が子どもの人生に頻出!

変化の激しい現代社会。日常生活でも高校生が携帯を持っていることが当たり前であったり、学校の連絡網がメールになつたりと、保護者の時代との違いをひしひしと感じていることでしょう。こうした変化は大学入試や、さらに先の就職活動にも起きています。

子どもたちの人生を決める進路選択は、本人が主導すべきものとはいえ、保護者がかかわらないわけにいかない重要なことです。その際に、保護者の知らない言葉やことがらがたくさん出てきます。いざそのときに親子で戸惑わないように、今のうちから耳を慣らして心の準備をしておきましょう。

「いまどきの親度」チェック!

入試や就職にまつわる下記の用語について、皆さんの現在の認識状況をチェックしてみてください。

	言葉の意味も知っている	or	言葉は知っているが意味は知らない	or	まったく知らない
オープンキャンパス	<input checked="" type="checkbox"/>	or	<input checked="" type="checkbox"/>	or	<input checked="" type="checkbox"/>
AO入試	<input checked="" type="checkbox"/>	or	<input checked="" type="checkbox"/>	or	<input checked="" type="checkbox"/>
センター利用入試	<input checked="" type="checkbox"/>	or	<input checked="" type="checkbox"/>	or	<input checked="" type="checkbox"/>
自己推薦	<input checked="" type="checkbox"/>	or	<input checked="" type="checkbox"/>	or	<input checked="" type="checkbox"/>
アラカルト方式	<input checked="" type="checkbox"/>	or	<input checked="" type="checkbox"/>	or	<input checked="" type="checkbox"/>
キャリアセンター	<input checked="" type="checkbox"/>	or	<input checked="" type="checkbox"/>	or	<input checked="" type="checkbox"/>
エントリーシート	<input checked="" type="checkbox"/>	or	<input checked="" type="checkbox"/>	or	<input checked="" type="checkbox"/>
インターンシップ	<input checked="" type="checkbox"/>	or	<input checked="" type="checkbox"/>	or	<input checked="" type="checkbox"/>
ソー活	<input checked="" type="checkbox"/>	or	<input checked="" type="checkbox"/>	or	<input checked="" type="checkbox"/>
リクナビ	<input checked="" type="checkbox"/>	or	<input checked="" type="checkbox"/>	or	<input checked="" type="checkbox"/>

取材文/長島佳子
イラスト/森田MIW

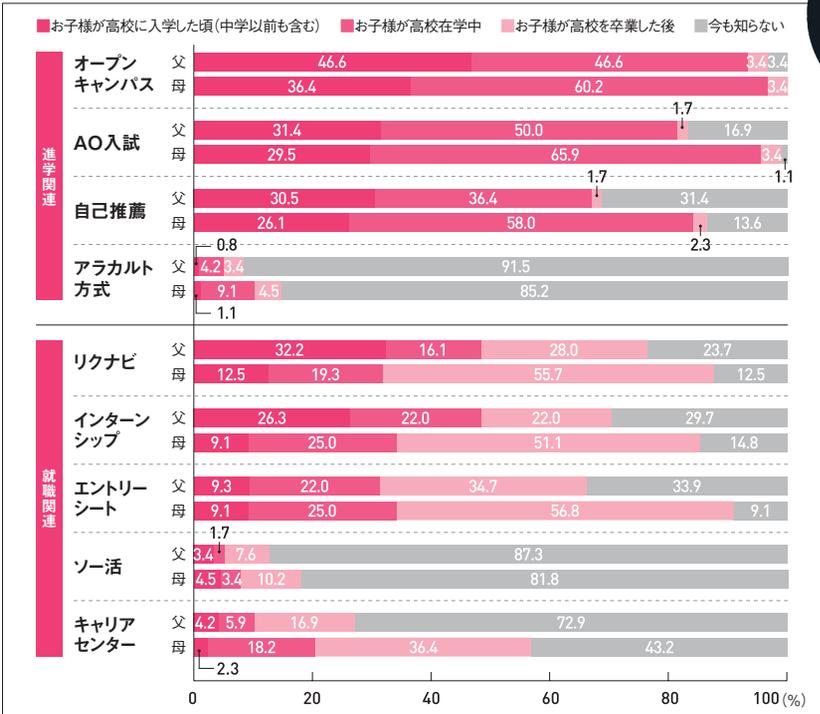


今、全部知らなくても大丈夫。
先輩保護者だって
同じでした。

※各用語については、次ページ以降で解説していきます。



進学や就職に関する言葉、いつ知りましたか？



進学、就職いずれの用語でも、子どもの高校入学時から知っていたという保護者は半数もいませんでした。また、高校入学時にすでに知っていた人は男性(父親)のほうが高いのですが、子どもが進学や就活を経た後では女性(母親)の比率のほうが高くなっています。いかに母親の関与や関心が高いかがうかがえます。一方、進学や就活が終わった後でも「アラカルト方式」や「ソー活」のように、まだほとんど知られていない用語もありました。

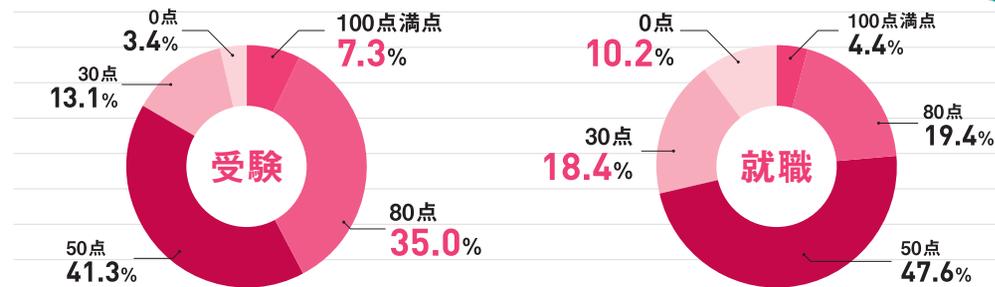
先輩保護者にアンケート

就職活動を経験した大学生の子どもを持つ先輩保護者の方々に、大学進学や就活に際してのアンケートを実施しました。数年後、皆さんはどんな回答をするようになっていくのでしょうか？

*大学4年生の子どもを持つ全国の保護者206名を対象に、2011年12月にネットアンケートを実施。



受験や就活について親としての自己評価は？



子どもの大学受験や就職活動を振り返って、親としての態度に点数をつけてもらったのが左のグラフです。いずれも「50点」と、どちらつかずの回答が多数派でしたが、大学受験では「100点」や「80点」という及第点の自己評価をしている人が4割以上いたことに対し、就活では「30点」「0点」の低い自己評価の方が及第点を上回っていました。

お子さんの就職についての感想や衝撃を受けたことは？

- 「スマートフォンがなければ就職活動ができないことに驚いた。エントリーシートなどというシステムもしかり。」
(長野県・58歳女性・自己評価100点満点)
- 「自分のころとかなり違い、今は企業の就職説明会に参加するのも一苦労なので大変なと思いました。」
(東京都・55歳女性・自己評価50点)
- 「3年の秋に就職活動が始まり、勉強そっちのけで多数の企業に入社試験に行ったが、それに伴う費用が膨大で自分たちの時代からすると信じられないと思った。」
(長崎県・51歳女性・自己評価30点)
- 「自分の頃は、卒業したら絶対に就職と思っていたが、今は就職難ということもあるが、フリーターも選択肢の中に入っていることに驚かされる。」
(神奈川県・51歳女性・自己評価80点)

お子さんの大学入試についての感想や衝撃を受けたことは？

- 「センター試験から実際の受験校を決定するまでの流れが私の時代(共通一次の前の世代)とはがらりと違って戸惑った。」
(宮城県・54歳男性・自己評価80点)
- 「推薦で合格する人がかなりいること。もっと在学中に知識を深めておけばよかった。」
(富山県・51歳男性・自己評価50点)
- 「高校受験・大学受験すべて推薦入学だったので、受験の緊張感をほとんど感じる事がなかった点は驚いた。最近の傾向として推薦が多いと聞いてはいたがこれほど多いとは思わなかった。」
(京都府・44歳女性・自己評価50点)
- 「自分の受験の頃よりいろいろな学部が増えて、いったいどんなことを勉強し、将来に繋がっていくのが把握できなかった。」
(東京都・49歳女性・自己評価80点)
- 「私大の受験方法が、センター利用や、学部別受験などチャレンジしようと思えば何度でもできることに驚いた。」
(福岡県・51歳女性・自己評価80点)

子どもの成長とともに
「いまどき親度」を上げていきましょう！
詳しくは[次ページ](#)へ！

大学入試編

「理念に合う」学生を大学は求めている

就職が保護者の時代と違うのは、景気の変化や業種・職種が変わってきているから理解できても、大学入試が昔と全然違うと言われるとちよと納得がいけない気分になりませんか？ 少子化という時代背景だけでなく、大学の役割にも変化があるようです。



入試方法と学部が増えて
受験方法も多様化

大学の進路を考え始めたときに、保護者がまず驚くのは入試制度と、大学の学部名の多様化でしょう。

以前は共通二次試験と呼ばれていたものが現在はセンター試験に変わっていることは知っていても、私立大学でもセンター試験が利用できることはご存知でしょうか。また、AO入試という保護者の時代にはなかった制度や、学校からの推薦状がない自己推薦制度があるなど、知らずにいると受験の方法すら選べない状況になっているのです。

また、大学の学部名が昔と変わっていたり、個性化・多様化しているため、学部名を聞いただけでは何を学ぶのかわからないものも増えています。数年前の調査では、国内の大学の学士名称が580あり、うち6割がその大学にしかない名称でした。同じ系統がどの学部なのかかわかりにくく、大学を比較検討しづらい状況が生まれています。

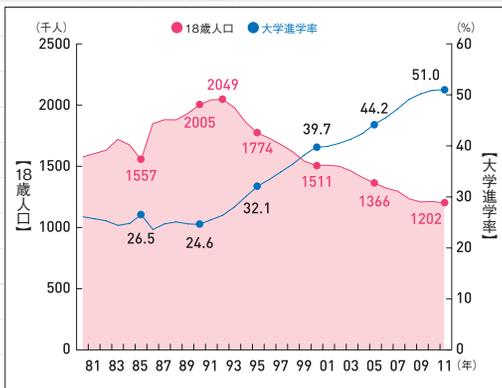
■ 主な入試制度

制度	内容
推薦入試	保護者の時代からあった指定校推薦のほかに、評定平均値などの条件を満たし、高校の推薦状をもらえれば誰でも応募できる公募推薦、高校からの推薦状が不要で意欲や適性が重視される自己推薦の制度もある。3年生の11月頃に出願が始まる。
AO入試	高校からの推薦状が不要で、大学側の求める人物像にマッチするかどうかや、個性や特技、高校生活で頑張ったこと、将来の目標などをエントリーシートや小論文、面接でアピールすることで評価される入試方式。3年生の夏休み頃に出願が始まる。
センター利用入試	大学入試センターが全国統一で1月に行うセンター試験を、国公立大学だけでなく、私立大学も受験評定として利用する制度のこと。
アラカルト方式	センター試験の科目の中から、各大学が利用教科・科目を自由に指定できる方式のこと。複数科目の中から受験生に受験科目を選択させたり、受験生の得意科目の配点をほかの科目よりも高くする入試方式などのことも指す。
一般入試	従来式の、各大学が個別に行う教科入試。年末に出願、2月頃に試験が始まる。

■ 多様化した学部名

学部名	大学
創生工学部	北海道工業大学
ホスピタリティ・ツーリズム学部	明海大学
環境情報学部	慶應義塾大学
情報環境学部	東京電機大学
現代ライフ学部	帝京平成大学
キャリアデザイン学部	法政大学
創造理工学部	早稲田大学
マンガ学部	京都精華大学
グローバル・コミュニケーション学部	同志社大学
表象文化学部	同志社女子大学
フロンティアサイエンス学部	甲南大学
地域創造学部	奈良県立大学
アジア太平洋学部	立命館アジア太平洋大学

■ 18歳人口と大学進学率の推移



出典：文部科学省「学校基本調査」(平成23年度) ※過年度高卒者等を含む



18歳人口が激減するなか
大学進学率は上昇

入試制度や学部多様化の背景には、18歳人口が減少の一途であること、反対に大学進学率がこの20年で250校も増えたこと(現在約780校)、大学進学率の上昇があります。大学側は学生獲得のためにカリキュラムに特色を持たせ、それに合う生徒を判定するために、入試制度も多様化させているのです。



オープンキャンパスなど
大学側がこまめな情報提供

現在の入試制度では、私立大学入学者の半数以上が推薦かAO入試による学生です。つまり、入試の目的が試験の成績で「選抜」するためのものから、面接などでお互いが合うか「マッチング」するためのものになってきたのです。オープンキャンパスと呼ばれる学校公開日を多くの大学が設けているのもこのためで、大学の生の状態を高校生や保護者に見てもらおうことを目的としています。リクルートの調査では2年生の秋までに約2割の親子が一緒に参加しています。

また、同じ大学でも複数の入試制度を設けており、制度によって時期も異なります。3年生の夏にAO入試が始まり、秋に推薦、年を越して一般入試やセンター利用試験にチャレンジするような長期戦になることもあるので、おおよその入試スケジュールを今から把握しておきたいものです。

親は
どうすれば
いい?



リクルート「カレッジマネジメント」編集長
小林浩

高校生活での経験でどんな成長を 重ねられるかを見守ってあげましょう

**変化の激しい時代。信頼できる情報から
事実を正確に読み取る力が求められます**

2009年に大学進学率が50%を超え、以後も上昇しています。進学率の上昇は、大学の役割が変化していることを示します。進学率が現在ほど高くなかった時代は、大学はエリートやリーダーを育てる場所でした。半数以上が進学する現在は、エリートも含め多様な人材を育成する場所に変わったのです。さらに、就職氷河期と言われるここ数年は、大卒の求人倍率が低下し、大学に入るだけではなんとかならない時代になりました。

保護者が子どもの進路選択に際してすべきことは、まずは情報を正しく読み取ることです。現代は情報過多と言われていますが、インターネットの普及で口コミなどの情報が増えているため、信頼できる発信元かどうかを判断する必要があります。例えば大学ごとの入学者数や卒業者数、就職者数など、昨年から大学には情報公開が義務づけられたので、数値化できる情報は大学自身が発信しているホームページなどで確認できます。それを知らずに口コミ情報と混同してしまうと「〇〇大学は500人だけの募集らしい」などと、調べればわかることが「噂」になって真偽の判断がつかない原因になりかねません。

また、入試制度が多様化していますが、AO入試や推薦入試の枠が増えると自ずと一般入試の枠が減ることになります。枠の割り振りは大学によって異なりますので、それを知っておくと志望校ごとに入試タイプを選ぶ判断材料にできることもあると思います。

**高校生活は基礎固めが重要。そこで得た
「軸」が子どもに合った未来につながります**

情報感度の高い高校生の中には、AO入試や推薦枠を狙うために、早くからボランティア活動などを行っている生徒もいるようです。しかし、高校生活を逆算して推薦を狙うための活動をするのは本末転倒な気がします。子どもたちにはそれぞれ個性や、今やりたいことがあって、その延長に将来なりたい姿があるものです。高校生活は大学に入るためのものではなく、高校生活でやるべき経験や基礎を積み重ねて成長し、その結果で自分に合ったタイプの大学や入試方式を選ぶべきではないでしょうか。

大学を知るためのオープンキャンパスで見るべきポイントは、ホームページなどではわからない「キャンパス」と「先輩」と「雰囲気」です。これらを見たときに自分に「合う・合わない」を何でどう感じるかは子どもそれぞれで、感覚的ですが大事なポイントです。このとき、自分の意志や軸をもっていないと、オープンキャンパスに行ってもピンと来ないかもしれません。

今は変化のスピードが激しい時代です。この先、子どもが大学に入ってからの4年間でも世の中は変わりますから、現在の就活の状況やハウツーが子どもが社会に出るときに役立つとは限りません。変化に対応するにも、自分は何を大事に生きていきたいかの軸が大切になってきます。子どもと進学や就職の話をするときには、こうした未来を見据えたコミュニケーションが求められていると思います。

リクルートの使えるサービス

受験サプリー

<http://jyukensapuri.jp/>

- センター試験の過去問が入手でき、ネット上でセンター模試受験!
- 出願や入試日程を管理できるから、受験のチャンスを逃さない!
- 偏差値情報や全国の大学検索で、自分に合った大学が見つかる!

3CC活用POINT

無料で会員登録するだけで、大学受験に必要な実力をつけて、入試のスケジュール管理もできる、本当に「使える」サイトができました! センター試験の過去問題を見られたり、センター模試が受けられるので、センター試験本番に強くなります。また、各大学の入試日程情報の詳細を掲載、複雑になった入試スケジュールをネット上で簡単に管理できます。もちろん、気になる各大学の偏差値やセンター得点率情報も満載。志望校が同じライバルの併願校もわかります。

受験サプリー

実力UPをサポート!

大卒 就職編

就活ツールは時代とともに変化が進行中。 将来の就活で子どもを迷わせないためには？

保護者世代が就活をしていたバブル期前後と今では、時代も社会も目まぐるしく変わっています。皆さんのお子さんが社会に出るのはまだ少し先のことですが、時代の変化は子どもたちの就職にどう影響し、高校生活とどうつながっているのでしょうか。



なぜ変わった?
社会情勢、ITの出現、業種や働き方の多様化、時代の変化すべてが影響



何が変わった?
企業探しから応募まで、ITツールは必須アイテム



どう変わった?
大学3年時から活動開始、長期化する学生も

保護者世代と現在の就職事情が大きく変わった背景には、バブル崩壊以降、社会が不安定になったことがあげられます。大企業でも倒産したり合併することが珍しくなくなり、終身雇用は常識ではなく、年齢とともに右肩上がりだった賃金もそうではなくなっています。契約社員や派遣社員など、正社員以外の雇用形態も飛躍的に増加しました。ITの普及は産業構造だけでなく、携帯電話やパソコンを誰もが所有するように、日常生活や学校生活にも大きな変化を及ぼしています。こうした時代の変化のすべてが就職事情に影響しているのです。

また、大学の新卒者の離職率は、転職も厳しいこの数年は減少傾向にあるものの、90年代後半から約3人に1人が3年以内に離職しています。こうしたミスマッチを防ぐためにも、企業の採用基準や方法が変わってきたようです。



エントリーシートは、企業ごとに形式や設問が異なる。



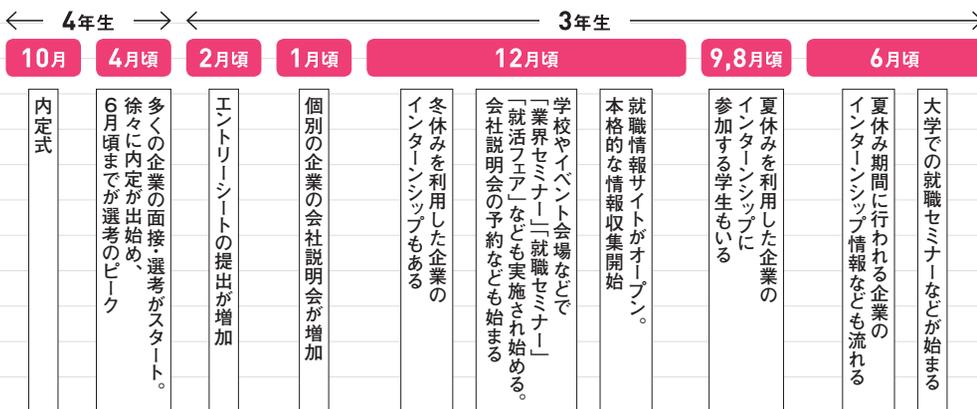
パソコンだけでなく、スマートフォンのアプリを利用したSNSも就活のツールとなっている。

履歴書を企業に郵送していた時代から、今はネットでエントリーシートを送る時代。エントリーシートとは志望動機や自己PRを記入するものですが、企業ごとの形式があるため、履歴書のように一通り一遍の内容では済まなくなっています。SNS（ソーシャルネットワーク）で企業と学生が接触して就職活動を行う「ソー活」という言葉も生まれ、今やパソコンやスマートフォンが就活の必須アイテムなのです。

保護者の時代には、大学4年の夏頃に大学の就職課に求人票が公開され、それより早く個人で動く場合でも4年生に入ってからが一般的だったと思います。現在は、就職情報サイトで企業を探して応募する就活スタイルが一般化しており、これらのサイトがオープンして就活が本格化するのが3年生の秋冬。就職活動に先駆け、企業が短期的に学生を研修生として受け入れて就業体験をさせるインターンシップに参加する学生も、3年生の夏休み頃から始めます。

就活は早期化しており、早い学生では4年生になったばかりの春には内定が出ます。準備期間も入れると、大学生活の早い時期に進路選択を迫られるのが現代の大学生の実情です。一方で、超氷河期と言われる現在は、多くの企業で内定式が行われる10月以降まで活動が長期化する学生も少なくありません。

■いまだきの大学生の就職スケジュール例



親はどうすればいい?



東洋大学 経営学部 准教授
小島貴子さん

子どもの人生を決めるのは子ども自身 迷ったときに親のサポートが必要

獲得意欲が薄い現代の子どもたちを 社会が求める人物に成長させるには？

現代の学校では、中高一貫校が公立でも増えたり、大学では推薦やAO入試が増えるなど、試験の数が減り、競争することも減っています。環境の変化やストレスという、本来成長のチャンスであることも減ってしまったのです。今の子どもたちは物質的に豊かな時代に育ち、情報もあふれ、自分で取りに行かなくても与えられて育っているため、獲得意欲が薄く、自分が何が欲しいかがわからないという面もあります。こうした若者が社会に出ると「指示待ち人間」と呼ばれてしまうのです。

しかし、就職して社会に出ると、自分の頭で考え、成長していくことが常に求められます。就活は、学生たちがこの力を身につけているのかを見極められる場です。企業が採用ツールとしてエントリーシートを利用しているのも、自分の考えを自分の言葉で話す（書く）ことができるかを判断するためです。

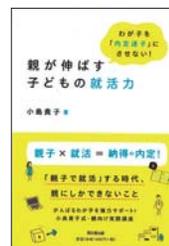
皆さんはお子さんに対して、つい「早く、早く」とか「勉強しなさい」と言ってしまいませんか？ 指示や命令だけでは子どもが考える機会がありません。大事なのは、「今すべきこと」を子ども自身が考えて「わかる」ことです。優先順位や緊急度を自分でわかるようにするのは、本人が答えを見つけるまで、親は待ってあげて、「ちゃんと待っているから自分で考えてごらん」と言葉にして子どもに伝えてください。それが、子どもへの「信頼」のメッセージとなります。それでも、進路選択など、本人だけでは解決できないことで「すべきこと」を迷っている場合もあります。そのときは、何について迷っている

か、口に出させてみましょう。親は答えを与えるのではなく、情報を整理するサポートをしてあげればいいのです。

今の自分が未来の自分をつくる それを知るための振り返りをしましょう

ある高校1年生の授業で、「3年前の自分にアドバイスするとしたら？」と問いかけたら、ほとんどの生徒が「もっと勉強しろ」と答えました。理由を尋ねると、「あのとき勉強していたら、今苦勞してないと思うから」と。進学校の生徒の中には「部活をもっと頑張れ」と答えた子もいました。進学のために勉強ばかり頑張ってきたけれど、両立だってできたはずという思いがあったようです。こうして振り返りをすると、「今の自分が未来の自分をつくる」ことに気づきます。振り返ってみて、やってきて良かったと思ったことは伸ばし、反省することは今から改めればいいのです。高校に入ったばかりのうちは、ひとりで考える力はまだなくても、大学進学や就職の進路選択では、子どもは自分の人生を自分で決めていかなければなりません。今のうちに親子で一度、振り返りをしてみるとよいでしょう。

自分で決める力を育ててあげることが、進路選択だけでなく、子どもを社会で迷わせないための親の大切な役割だと思います。



過保護ではなく、子どもの就活の最高のサポーターになるための心得が記された小島さんの著書『わが子を「内定迷子」にさせない！親が伸ばす子どもの就活力』(同文館出版発行)

リクルートの使えるサービス

リクナビ
検索
<http://job.rikunabi.com/>

- 1 約7000社の企業、20000人の先輩情報が収集できる！
- 2 オンラインで説明会や面接の予約、スケジュール管理もできる！
- 3 自己分析をもとにした企業検索や、就職イベントも配信！

3CG活用POINT

日本最大級の掲載企業数で就活の基本ツールと呼ばれているサイト。さまざまな検索条件から自分に合った企業を探し、説明会や面接、イベントの予約ができる機能はもちろん、自己分析や適職発見をオンラインでできるプログラム、SPI2（適性検査の体験版に挑戦できるなど）就活力を上げるツールも豊富。企業との連絡や就活スケジュールを管理できるマイページや、自宅でオンライン説明会に参加できるストリーム配信など、簡単に使いやすい機能が充実しています。

就活をサポート！
リクナビ